NEWSLETTER
April, 2012 - Spring
JBCA-KANSAI

国際ビジネスコミュニケーション学会 関西支部季報 2012 年・春

Japan Business Communication Association, Kansai Chapter

発行： 国際ビジネスコミュニケーション学会（JBCA）関西支部
〒547-0021 大阪市平野区喜連東 1-4-12
常磐会学園大学 Alex M. Hayashi 研究室内
TEL: 06-4302-8880 FAX: 06-4302-8884
Email: alex23go3500@yahoo.co.jp

研究と実践の融合・発展を目指して ― JBCA 関西支部 支部長 Alex M. Hayashi

関西支部会員の皆様、お元気でしょうか。支部長の Alex M. Hayashi です。春の暖かさを肌で感じる季節となりました。全国のキャンパスでは、いよいよ新学期がスタートしました。皆様の職場にも、きっと初々しい顔ぶれが揃っておられることでしょう。

お陰をもちまして、国際ビジネスコミュニケーション学会・関西支部は、多くの熱心な会員の皆様に支えられ、充実した活動を展開しております。今回のニュースレターは、2月に開催された関西支部会の様子を、より多くの方々にお伝えすることを目的に発刊しております。残念ながら前回の支部会にお越しいただけなかった先生方は、このニュースレターで関西支部の活動状況に触れていただき、ぜひとも次の機会には会場へお越しいただければと願う次第です。

ご存知の通り、国際ビジネスコミュニケーション学会は、多彩な研究分野を網羅するユニークな学術団体です。関西支部の会員の皆様には、ぜひご自身の研究成果をご発表いただき、支部のメンバーと知的刺激にあふれた時間を共有していただきたいと願っております。会員の皆様の研究と実践が、より高いレベルでフュージョンする関西支部会となれるよう、引き続きご支援をお願い致します。

サッと読めるダイジェストです。ぜひご覧ください。

Conference Overview

オープニング講演＋実践報告＋研究発表 バランスのとれたプレゼンテーション構成

去る2012年2月19日（日曜日）、午後1時より、同志社大学・今出川キャンパス（京都市上京区）にて、国際ビジネスコミュニケーション学会・関西支部例会（2012年度・初回）が開催された。25名程の参加者が集い、活発に意見交換をする会場は、外の肌寒さを忘れるほどの盛況ぶりであった。今回も日曜日の開催となった関西支部例会は、Alex M. Hayashi 支部長（常磐会学園大学）の挨拶によって午後1時に開会。支部長補佐の清水利宏会員（滋賀県立大学）の司会によってプログラムどおり順調に進行され、定刻通り終了した。

今回のオープニング講演には、常磐会学園大学専任講師の韓在熙氏を迎え、韓国の文化背景をもとにビジネスコミュニケーションの可能性を探った。今回、韓国出身の講師を招いたのは、中国出身の講師を迎えた前回に続き、オープニング講演の国際色を重視する支部長の意向を反映したものである。オープニング講演の後には、支部会員による発表セッションが続いた。一人あたり40分間（発表30分＋質疑応答10分）で、次の3名が日頃の研究成果を公表した。―【実践報告】西田淑子会員（サクセスインサイドコミュニケーション）、【研究発表】井辻敦雄会員（株式会社カプコン）、則定隆男会員（関西学院大学）※発表順。いずれのセッションとも、質疑応答の時間を余すことなく意見交換がなされるなど、フロアの満足ぶりがうかがえる充実した午後となった。

支部例会後には、2012年度・第1回の関西支部総会が開催された。昨年度の事業総括と会計報告、ならびに今年度の事業計画と予算報告があり、いずれも承認を得た。

総会終了後は、同志社大学キャンパス内にあるレストラン「アマーク・ド・パラディ」にて懇親会が催された。穏やかな雰囲気のもと、発表者との意見交換や会員相互の情報交換が積極的に行なわれ、午後8時、すべての支部例会プログラムは滞りなく終了した。

活発な学会活動を支える関西支部会員（総会終了後の記念撮影）

Opening Lecture

【 オープニング講演 】

韓国経済の基盤を築く歴史と文化
将来の発展を支える国家レベルのプロジェクト

◆韓 在熙 氏（常磐会学園大学 専任講師）
「韓国の伝統文化と現代
― 社会・経済・生活を中心に ―」

今回の関西支部例会のオープニング講演には、常磐会学園大学専任講師の韓在熙氏が登壇。韓国流のビジネススタイルを、その文化的・歴史的背景から考察するというアプローチで講演が進められた。主要なテーマは、「伝統文化」「礼儀・価値観」「現代経済・社会」の3点。それぞれの論点が、時系列的かつ具体的に論じられた。「通過儀礼」「歳時儀礼」と呼ばれる伝統文化の継承を重んじることや、いわゆる「情」や「おもてなし」に関する話題は、そのまま日韓間の国際ビジネスコミュニケーションを円滑に進めるうえでのヒントとなった。また、現代の韓国経済については、所得層の両極化が徐々に進行している問題点を指摘する一方、国家戦略としての「グローバル化」「情報化」「英語教育」の取り組みを紹介。国家プロジェクトゆえの大規模な取り組みに、フロアからは感嘆の声がもれた。国際化ならびに国際ビジネスコミュニケーションのスキル強化には何が必要なのか。各会員が、それぞれの視点で自身に問いかける1時間であった。

歴史的・文化的な背景をわかりやすく論じる韓在熙氏

【オープニング講演 要旨】
近年の韓国は、国をあげての世界化・国際化・情報化が進められ、経済的な成長とともに生活文化面における様々な文化変容をもたらしてきている。本報告では韓国の現代文化に受け継がれている伝統文化及び伝統的な価値観の変化が起きつつある現代の社会・経済・生活文化の最新動向について紹介したい。

Presentations

■ 第 1 部

【 実践報告 1 】

教室の居心地の良さと「ハッピーな」空気
講師からの的確なフィードバックが授業を変える

◆西田淑子 会員（サクセスインサイドコミュニケーション）
「出席率を高めるビジネス講義を構築する一考察」

発表セッションの第1部（実践報告）では、西田淑子会員が、ビジネス英語教育の授業展開における工夫と改善のポイントを紹介した。ユニークだったのは、同発表の時間中、終始会場に音楽（BGM）が流れていたこと。この音楽は西田会員の授業中にも採用されており、音楽によって教室の空気を和ませ、学生の居心地を良くする狙いがあるという。他にも、講師と学生がコメントを交換し合う取り組みや、毎回何か「ハッピーなニュース」を学生に語らせるなど、円滑な講義運営を支える地道な取り組みが、学生の出席率向上につながったケースが紹介された。ホテル業界における自身の経験に根ざした西田会員の授業実践には、学生への「おもてなしの気持ち」が込められているようであった。

【発表要旨】
2011 年度後期、選択科目で 4 科目の全履修者に対する平均出席率は 70%、4 科目中最高科目の出席率は 83.8%。遅刻、欠席、おしゃべり、途中退室、居眠り、をどうしたらなくせるのか、よりも、どうしたら面白い講義になるのか、を試行錯誤した現在の結果である。最終講義の学生のコメントは「たった半年間でしたが、国際にこんな素敵なおもしろい先生がいらっしゃることにとても驚き、とても楽しい授業でした。（大阪国際大学宿泊ビジネスマネジメント）」、「今日で最後の授業だったので、ちょっとさみしいです！（鈴鹿国際大学 ホテルマネジメント）」「今までにない授業方法だったので、授業も先生も全てが新しくて楽しかったです。（大阪国際大学 旅行業実務Ⅰ）」なにが出席率を高める講義だったのか考察する。

■ 第 2 部

【 研究発表 1 】

日本的“稟議”から国際的“RINKGI”へ
スムーズな導入に向けたポイントを探る

◆ITSUJI, Atsuo 会員（株式会社カプコン）
One Consideration of Ringi-Workflow
Implementation at Our US Subsidiary

続いての第2部（研究発表）では、まず井辻敦雄会員が、海外子会社における「オンライン稟議システム」の導入について発表した。ここでの議論は、稟議システムの導入背

景、過程、概要、そしてその円滑な運用にむけての論点の整理である。日本的な「稟議」という価値観と、外国人従業員に浸透する各部署の権限認識をどのようにすりあわせていくのか。同会員の発表では、この点に参加者の関心が集まった。フロアでは、いわゆるトップダウン式がもたらすメリットと弊害、あるいは親会社と子会社にまたがる法的な問題についての質疑が交わされ、理論と実践が交錯する国際ビジネスコミュニケーションの難しさが改めて浮き彫りとなった。

【発表要旨】

This presentation studies how to reveal the background and change imperatives why Capcom had to implement Ringi workflow to its US subsidiary, as well as the process and their project styles have been chosen. Then the study goes to the introduction of our consideration of its success factors, benefits, and lessons learned. The scope of the business process in this presentation is "Ringi", which is an organizational decision making process flow with an IT tool adopted at majority of companies in Japan. In 2011, Capcom USA management had a critical cost management issues, not having visibility of how the actual contract closing processes were controlled, that the management were only asked to sign the contract after everything is settled. Therefore, Capcom Japan management agreed to implement the similar system (Microsoft Sharepoint) we are using at headquarters. The local project team was built, and Japan IT dept. rolled out the system to US, supporting also project management activities. The project successfully went live in 5 months, and users and management appreciates the shortened process lead-time as well as the visibility of all the records of what and how they have made decisions.

チャートを豊富に用いて論を展開する井辻会員

【 研究発表 ２ 】

英語公用語化における「準備型」と「結果型」
英語オンリーから「英語プラス」への転換とは

◆則定隆男 会員（関西学院大学）
「英語の社内公用語化論を巡る議論の整理と提言」

第2部（研究発表）の2人目は、則定隆男会員による社内英語公用語化の議論である。発表は、経緯と文献の概観、論点の整理、そして提言と、シンプルかつストレートな論旨を構成。フロアとともに、英語公用語化論を正面から再考した。同会員は、英語公用語化の具体的事例を「準備タイプ」「結果タイプ」として分類。そのうえで、各ニーズに即した英語公用語化を議論する必要性を説いた。英語公用語化についての識者の賛成意見と反対意見を紹介し、「英語オンリー」化に対する疑問を提起。単なる"英語オンリー"の議論ではなく、"英語プラス"、あるいは英語を"所有"するのではなく"利用"する思想の意義を指摘した。社内の「公用語」という、言葉の定義そのものにもかかわる本質的な議論は、フロアを大いに刺激した。

【発表要旨】

ユニクロのメーカーであるファーストリテイリングや楽天という知名度のある企業が英語を社内公用語にすると発表して以来、これに関する賛否両論が活発に繰り広げられている。一方こういった論争とはかかわりなく、企業は日本語能力を問うことなく優秀な外国人の採用を始めており、日本国内においても、企業内でのコミュニケーションは英語によらざるを得ないという実態は着実に拡大しつつある。

私は、以前"Corporate language strategy"と題する発表（学会年報、2007、66, pp.109-119）を行い、英語を社内公用語とするメリットとデメリットを示した。そして、企業のグローバル化の形態を分類し、いずれの場合に英語を公用語とすべきかを紹介した。この発表以降、上に述べたように、ビジネス界は英語の社内公用語の動きを加速させているが、それが根強い反対論を引き起こしてもいる。

今回の発表では、この問題に関する賛否両論を整理し、改めてビジネスの視点から提言を行いたい。

議論の経過と展望をストレートに論じる則定会員

General Session

【 関西支部 支部総会 】

昨年度の事業総括と今後の展望
支部会員の連携強化を目指す基本姿勢を確認

新年度を迎えた関西支部例会で、その事業内容および会計関連の審議を行なう支部総会が開催された。Alex M.

Hayashi 支部長の挨拶に続き、支部長補佐の清水利宏会員によって議事が進められた。

● 議題1：2011 年度 事業総括（報告）

・ Alex M. Hayashi 支部長より、2011 年度の事業総括について報告があった。趣旨は以下の通り。

Though it was my first voyage of this JBCA Kansai ship to make in the year 2011, from the beginning, I was so happily gifted with the excellent newly-born teamcrew, Mr. Shimizu and Mr. Takamori. And I am honored and pleased with their efficient work and positive attitude. Mr. Shimizu and Mr. Takamori have worked hard to make the JBCA Kansai revitalized and more energized. At the same time I would like to give my heartful thanks to every member of JBCA Kansai Chapter for this golden moment, the end of 2011.

● 議題2：2012 年度 事業計画（承認）

・ 議題1に引き続き、2012 年度の事業計画についての審議があり、承認を得た。支部長発表による基本趣旨は以下の通り。

The target of our academic activity in the JBCA Kansai is to grasp the real up-to-date information direct from the living mouths of the invited lecturers from overseas. The down-to-earth and trendy data will give the members some new chances to have more discussion upon business communication issues from respective angles among countries.

Starting from Asia, our conference in the forth-coming semester is planning to invite some guests from Europe, South-America, India with a view to have more facts and professional knowledge how and why the nations are shifting between the developed and the developing ones or vice-versa.

And further we will find some ways to observe Japan's business future prospects in a true sense of business communication. I truly hope more active conferences (Kansai Chapter Meetings) will be held this year.

● 議題3：2011 年度 会計報告（承認）

・ 関西支部長補佐の高森桃太郎会員より 2011 年度の会計報告、ならびに監事の久島幸雄会員と長沼健会員（※報告書記載順）より会計監査の報告があった。その内容ならびに収支状況について、異議なく承認を得た。

● 議題4：2012 年度 予算案（承認）

・ 議題3に引き続き、2012 年度の予算案審議があり、異議なく承認を得た。

● 議題5：次回支部会の予定について（報告）

・ 関西支部長補佐の清水利宏会員より、次回支部会の開催予定について報告があった。

・ 次回支部会においても、積極的な参加が呼びかけられた。

● その他：

・ 写真撮影、個別連絡

[[[Information]]]

関西支部会員の皆さまへ

◆ *本年度第2回の例会は、5月6日（日）午後1時より、「関西学院大学・大阪梅田キャンパス」にて開催。*

次回の関西支部例会は、関西学院大学・大阪梅田キャンパス（大阪市北区）にて開催します。ぜひご参集ください。

◆ *本年度第3回の例会は、9月中旬の日曜日に開催いたします。発表者の公募など詳しくは6月下旬にお知らせします。*

◆ *いま一度、現住所とメールアドレスをご確認ください。メールが届かない際は事務局へ！*

ただいま、関西支部事務局では、連絡伝達の「電子化」を推進しています。今回の「ニュースレター」と「研究発表募集のご案内」は、前回に引き続き、会員名簿の登録状況を確認するために、支部会員全員に「郵送」と「電子メール（登録会員のみ）」の両方でお届けしています。郵送住所に誤りがある場合や、まだメールアドレスをご登録いただいていない会員の皆さまは、お早めに事務局までご連絡ください。連絡先は本紙末尾に記載されています。

国際ビジネスコミュニケーション学会
関西支部 季報 “NEWSLETTER”
2012 年 4 月 発行

【 編集 】
関西支部 支部長 Alex M. Hayashi（常磐会学園大学）
補 佐 清水 利宏（滋賀県立大学）
補 佐 高森桃太郎（同志社大学）

【 発行 】
国際ビジネスコミュニケーション学会（JBCA）関西支部
〒547-0021 大阪市平野区喜連東 1-4-12
常磐会学園大学 Alex M. Hayashi 研究室内
TEL: 06-4302-8880 FAX: 06-4302-8884
Email: alex23go3500@yahoo.co.jp